

電気工学科, 情報工学科, 建築学科		国語			
学年	第1学年	担当教員名	館下徹志		
単位数・期間	3単位	週当たり開講回数	2回	通年	必修科目
授業の目標と概要	古今の言語文化に触れ、それを読み解くことを通して論理的な思考と記述の基礎固めを目指す。言葉のきまりに従って言語表現を正確に音読するとともに、現代日本語を正しく表記する作法を身につける。 釧路高専学習・教育目標(F)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読み進めながら、その内容について考え、発表、傾聴、記述、討論によって、言語文化に関する理解を深める。授業中も国語辞典を活用して語彙を豊かにし、読解力や表現力に自ら磨きをかけてほしい。 ・現代日本語の正しい表記法を学ぶための書き取り課題に毎週取り組んでもらう。 ・年に一度、提示された課題図書を読み込んだ経験に基づいてまとめた「読書レポート」の提出を求める。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語表現の文脈に沿って、物事を論理的に理解することができる。 ・根拠を示しつつ、自らの考えを論理的に述べることができる。 ・テキストの本文を正確に音読できる。 ・日本語を表記する上でのきまりを理解し、実践することができる。 				
成績評価方法	定期試験の成績(90%)と「読書レポート」の内容(10%)により評価する。				
テキスト・参考書	テキスト:「国語総合」(筑摩書房) 参考書:「カラー版 新国語便覧」(第一学習社) 「古文の読みかた」(藤井貞和 岩波ジュニア新書) 「ちゃんと話すための敬語の本」(橋本治 ちくまプリマー新書)				
メッセージ	論理的な言語表現の基礎となる十分な語彙力と日本語の表記能力を身につけよう。聴く・話す・書くという言葉を用いた活動は、他人への気づかいを基盤にしなければ、独善的な振る舞いとなってしまふ。積極的に授業に参加しながら、他者とのコミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容					
授業項目			授業項目ごとの達成目標		
1 ガイダンス(1回) 2 「白夜」 星野道夫(7回) 3 「児のそら寝」 宇治拾遺物語(6回) 4 日本語表記練習(7回)			1 授業の進め方や到達目標が理解できる。 2 筆者の関心や感受性に沿って文章の意味を読みとることができる。 3 歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを理解し、正しく音読できる。 4 登場人物の行動の理由が理解できる。 5 原稿用紙に日本語を丁寧に記入できる。 6 国語辞典を活用できる。 7 正答に従って正確に自己添削ができる。		
前期中間試験			実施する		
5 漢文訓読入門(5回) 6 「考える身体」 三浦雅士(6回) 7 「かくや姫誕生」 竹取物語(5回) 8 日本語表記練習(8回)			5 訓点の意味を理解し、漢文を正確に音読できる。 6 訓点に従って書き下し文を書くことができる。 7 接続詞・接続語の働きが理解できる。 8 論述に即して客観的なものの見方ができる。 9 文中の漢字を正確に読むことができる。 10 歴史的仮名遣いに注意して、正しく音読できる。 11 登場人物の心情が理解できる。 12 同音異義語の使い分けができる。 13 正しい筆順で漢字が書ける。		
前期期末試験			実施する		
9 「羅生門」芥川龍之介(10回) 10 「ある人、弓射ることを習ふに」 徒然草(4回) 11 日本語表記練習(7回)			9 正確に音読できる。言葉の意味が理解できる。 10 登場人物の心理の動きが理解できる。 11 正確に音読することができる。 12 筆者の主張内容が理解できる。 13 送りがなの原則が理解できる。 14 行頭・行末の禁則が理解できる。		
後期中間試験			実施する		
12 「ボランティアの報酬」 金子郁容(6回) 13 「万葉集・古今集・新古今集」(6回) 14 「朝三暮四」 列子(4回) 15 日本語表記練習(8回)			12 論理的な文章表現における具体例の役割を理解する。 13 段落構成の意味を理解する。 14 和歌の音数律と特徴が理解できる。 15 正しく音読し、書き下し文をかくことができる。 16 故事成語の意味が理解できる。 17 文脈に応じた適切な漢字をあてることができる。		
後期期末試験			実施する		

機械工学科, 電気工学科, 建築学科		地理			
学年	第1学年	担当教員名	中西秋雄		
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目
授業の目標と概要	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。 釧路高専目標(A-1)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	教科書・地図帳・ノート、配布プリントなどを忘れないこと。 新聞の時事の記事やテレビの教養番組などに興味関心をもち、世界の様々な地域の人々の生活や文化を理解する姿勢。				
到達目標	現代世界の地理的な諸課題についての考察はもとより、急速に進展する国際社会の下で、異文化理解の大切さと国際的な交流と協力を深め、国際平和に貢献する資質と姿勢を身につけることができる。				
成績評価方法	合否判定：定期考査（80％）、課題レポート（20％） 最終評価：合否判定の評価に授業中の取り組み（±10％）を含める。				
テキスト・参考書	教科書：地理B - 世界をみつめる - （教育出版） 参考書：「新詳高等地図」（帝国書院） 「新編ビジュアル地理」（とうほう）				
メッセージ	これから21世紀の世界はますます国際化が進展します。 仕事や旅行で海外に行く機会も多くなります。 異文化理解の大切さを共に学ぼう！				
授業内容					
授業項目			授業項目ごとの達成目標		
1. 地理を学ぶ（世界の国々の大観）（1回） 2. 世界の国々（国家と人種・民族・宗教）（1回） 3. 様々な国家＝移住者を中心に建国された（1回） 4. (1)複合民族社会アメリカ合衆国（1回） 5. (2)アメリカ合衆国の農業（1回） 6. (3)アメリカ合衆国の工業（1回） 7. アメリカ企業の世界化（1回）			世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連づけて追究し、異文化を理解し尊重することができる。 更に、世界の人種・民族及び人間の生活・文化の特色を国家とも関連付けて理解するとともに、人間を取り巻く環境の多様性についても理解することができる。		
前期中間試験			実施しない		
8. ペルーの民族と産業（1回） 9. インド - 歴史・文化と自然環境（1回） 10. インド - 工業・農業（1回） 11. 南アジア地域協力連合(SAARC)の国々（1回） 12. (1)ヨーロッパの特色 - 自然環境・民族（1回） 13. (2)EU - 統合への歩み（1回） 14. (3)EU - 新しい統合と問題点（1回） 15. (4)ヨーロッパの東西 - 東欧の民族問題（1回）			近隣諸国の生活・文化を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察し、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することができる。 また、世界の人々の生活の地域的特色とその動向を農業や工業などの産業と関連づけて理解することができる。		
前期末試験			実施する		
16. アフリカ - 自然、歴史的背景（1回） 17. 北アフリカ - 産業のうごき（1回） 18. サハラ以南のアフリカ（1回） 19. オセアニアの地域的特色（1回） 20. アジア太平洋国家に変身するオーストラリア（1回） 21. 進展する国家間の協力と統合(ASEAN)（1回） 22. 中国 - 人々の生活、農業（1回） 23. 中国 - 対外開放政策の進展（1回）			現代世界の地域構成を理解し、現代世界の国家、国家間の協力と統合などの動向を理解することができる。		
後期中間試験			実施しない		
24. 大韓民国の人々の生活と日本（1回） 25. 変化するロシア連邦（1回） 26. エネルギー資源と環境問題（1回） 27. 新エネとエネルギーシフトの動き（1回） 28. 地球温暖化とCO2排出量取り引き（1回） 29. 世界の人口・食料問題（1回） 30. 世界の民族問題（1回）			環境・エネルギー問題、人口・食料問題などの地球的課題を通して現代世界が抱えている諸問題を理解することができる。 また、日本や近隣諸国が取り組んでいる地球的課題を追究し、それらの現れ方は国によって異なっていることや、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを理解し、日本の役割などを考察できる。		
後期末試験			実施する		

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科, 建築学科			物理			
学年	第1学年	担当教員名	松崎俊明, 浦家淳博, 森太郎			
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	2回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	物理現象を実体験として理解し, それを数値的, 数式的に捉える能力を養う. 科学的思考力を養うとともに, 学ぶことの楽しさを実感してもらいたい. 特に1学年では, 電気, 波動の諸現象を扱う. 釧路高専教育目標A(30%)C(70%)					
履修上の注意 (準備する用具・ 前提となる知識等)	四則演算(分数・比を含む)の筆記計算力が必要となる. 副教材の問題を電卓を使わずに解ける様, 自習もして下さい.					
到達目標	電気・波動の具体的な諸現象を視覚的, 数値的に捉えることができる.					
成績評価方法	合否判定: 4回の定期試験の合計点数が240点以上であること.					
テキスト・参考書	教科書: 物理I(東京書籍, 文部科学省検定教科書) 参考書: ニューステップアップ物理I(東京書籍) チャート式シリーズ新物理I(数研出版)					
メッセージ	用語や記号を覚えてしまうことで, 授業の内容の理解も早まります. 授業は, 新しい概念を得るだけでなく, 誤った概念や先入観を正す場です. 学生の皆さんの楽しい雰囲気, 活発な発言が内容を豊かにします.					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
科学量の表し方(5回) 電流・電圧・抵抗・電力(5回) 演習(4回)			有効数字や単位の概念, グラフの描き方を理解できる。 オームの法則, 電力の数値計算ができる。			
前期中間試験			実施する			
電磁力(4回) 電磁誘導(4回) 情報を伝える電気(3回) 演習(3回)			力・電流・磁界を3次元的に理解できる。 誘導起電力の向きを理解できる。 アナログ・デジタル信号の違いを説明できる。			
前期期末試験			実施する			
音・光の性質(2回) 正弦波(4回) 横波と縦波(2回) 波の重ね合わせ(3回) 演習(3回)			音と光が波動であることを理解できる。 正弦波の式, グラフ, $v=f$ を総合的に理解できる。 縦波の横波表示が理解できる。 波の重ね合わせの作図ができる。			
後期中間試験			実施する			
波の反射・屈折(2回) 波の干渉(2回) ドップラー効果(2回) 固有振動(2回) レンズ(2回) 演習(4回)			屈折の法則を用いた数値計算ができる。 水面波の干渉を作図できる。 ドップラー効果が理解できる。 弦や気柱内の固有振動を図示できる。 レンズを通した光路を図示できる。			
後期期末試験			実施する			

電気工学科		化学				
学年	第1学年	担当教員名	加藤隆			
単位数・期間	3単位	週当たり開講回数	2回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	化学的に探求する態度と基本的な概念や原理・法則を学習してもらいます。そして、日常生活においても科学的な視点から対処できるようにしてもらいます。講義は教科書に沿って、主にプロジェクターを用いて行います。釧路高専教育目標 (A)70%、(C)30%					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	説明の後、毎回確認シートを使います。その他、演示実験や小テストを行います。各章ごと問題集を使い演習を行いますので、電卓を使用する時もあります。なお、前期は2時間授業を週1回、後期は2時間授業を週2回行います。					
到達目標	原子や分子の構造とその変化、イオン、酸化・還元反応、反応熱、および有機化学の基礎的な事柄を理解できる。					
成績評価方法	定期試験(4回)80%、授業態度、小テスト、課題(20%)					
テキスト・参考書	教科書；文科省検定済教科書 高等学校 化学1(三省堂) 副教材；ニューステップアップ 化学1(東京書籍) 参考書；ゼミノート化学1(数研出版)、チャート式解法と演習 化学1(数研出版)					
メッセージ	積極的に授業に参加してください					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
1 ガイダンス、物質の分離(1回) 2 元素と単体・化合物(1回) 3 原子(1回) 4 実験(1回) 5 元素の周期律(1回) 6 イオン(1回) 7 分子(1回)			物質を構成する成分についてわかる 純物質と化合物、混合物についてわかる 原子の構造についてわかる 蒸留の実験を行い、物質を分けることができる 元素の周期律と周期表の意味についてわかる イオンとは何かを理解できる 分子とは何かを理解できる			
前期中間試験			実施する			
8 テストの返却と解説(1回) 9 電子配置(1回) 10 まとめと演習(1回) 11から13 物質質量(3回) 14から15 化学反応式(2回)			テストの結果と解説 電子配置についてわかる 原子、分子、電子などについて計算ができる 物質質量について理解し、計算ができる 化学反応、化学反応式と物質質量の関係がわかる			
前期期末試験			実施する			
16 テストの返却と解説 反応熱(1回) 17 実験2(1回) 18から19 熱化学方程式とヘスの法則(2回) 20から24 酸と塩基(5回) 25 酸・塩基のまとめと演習(1回) 26から27 酸化・還元(2回) 28 金属のイオン化と電子の授受(1回) 29から33 電池と電気分解(5回) 34 ファラデーの法則と演習(1回)			反応熱がわかる 化学反応式を実験から求める 熱化学方程式とヘスの法則を学び、計算ができる 酸と塩基について学び、pH、中和および塩がわかる 酸・塩基についての計算ができる 酸化と還元の意味、酸化数の計算ができる 金属のイオン化と電子の関係がわかる 電池の原理と種々の電池および電気分解がわかる ファラデーの法則を使って計算ができる			
後期中間試験			実施する			
35 テストの返却と解説、有機化合物の特徴(1回) 36 有機化合物の分析(1回) 37から38 飽和炭化水素(2回) 39 不飽和炭化水素(1回) 40 アルコールとエーテル(1回) 41 アルデヒドとケトン(1回) 42から43 脂肪族カルボン酸、エステルと油脂(2回) 44 芳香族炭化水素(1回) 45 まとめ・演習(1回)			有機化合物とは何かわかる 元素分析と官能基がわかる アルカンの構造と、異性体がわかる アルケンとアルキンの構造、性質がわかる アルコールとエーテルの性質、反応がわかる アルデヒドとケトンの性質、反応がわかる カルボン酸、エステル、油脂とセッケンがわかる 芳香族炭化水素がわかる 有機化合物について理解できる			
後期期末試験			実施する			

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科, 建築学科			保健		
学年	第1学年	担当教員名	館岡正樹, 三島利紀		
単位数・期間	1単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目
授業の目標と概要	生涯にわたって心身の健康を保持増進するための実践力の育成をする。(計画的に運動に親しむ資質や能力との関連性を含む)・生涯学習の意義の明確化につながる。釧路高専教育目標(E)40%(F)60%				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	課題学習においてはプレゼンテーションをするのでパワーポイントを使って発表する予定のグループはノート型パソコン及びCD-ROMまたはメモリー等を準備すること。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・性に関する正しい知識と理解ができる ・課題学習においてテーマの決定からプレゼンテーションを行うまでの計画性と実践力を身につけることができる 				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・性教育は「私の出生秘話」と題して、両親、兄弟、祖父母等を通してのレポートを作成(30%) ワークシート2枚(各10%) ・課題学習のプレゼンテーションにおいては、教員の評価(35%)と他グループによる学生の評価(15%)を合わせて総合評価を行なう。 				
テキスト・参考書	教科書; 現代保健体育(大修館) 資料; 図説現代保健体育(大修館)				
メッセージ	5年生において、所属する学科の専門教育を生かした研究の集大成としての“卒業研究”があります。課題学習はその導入と考えております。常に、研究心を持って、何事にも積極的に取り組んでください。				
授業内容					
授業項目			授業項目ごとの達成目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス、アンケート (2回) ・男女の性と性機能の違い (ワークシート) (2回) ・妊娠 (1回) ・ビデオ学習・ワークシート (2回) 			<ul style="list-style-type: none"> ・1年の授業の流れと注意事項 ・同性及び異性の身体の違いを理解することができる ・受精から出産直前までの正しい知識を学ぶことができる ・各項目でワークシートを作成し授業内での個々の理解度を認識し、性に関する正しい知識を持つことができる 		
前期中間試験			実施しない		
<ul style="list-style-type: none"> ・出産(ビデオ学習, ワークシート) (2回) ・沐浴体験、妊婦疑似体験(ワークシート) (2回) ・人工妊娠中絶(ビデオ学習, ワークシート) (2回) ・性感症とその予防 (1回) ・まとめ (1回) 《課題》 ・レポート提出			<ul style="list-style-type: none"> ・生命誕生についての正しい知識を学ぶことができる ・体験によって育児を実感することができる ・人工妊娠中絶の実態と生命の尊さを感じることができる ・身近で起こりうる病気であることを認識し、その実態と対処法を理解することができる ・「私の出生秘話」と題して、両親、兄弟、祖父母等を通してのレポート作成することにより自己肯定感を養うことができる 		
前期期末試験			実施しない		
課題学習 <ul style="list-style-type: none"> ・個々がテーマを選択・決定する (1回) ・同じテーマの者が集まり2~5人による班を編成する (1回) ・現代保健体育(大修館), 図説現代保健体育(大修館)をテキストとし、各グループでテーマに沿った情報収集を行なう (5回) 			<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを使い、自分の興味を引き出すことができる ・人とコミュニケーションを取りながら班を作ることができる ・リーダーが中心となり、グループ内で協力しながら資料収集を計画的に実行できる 		
後期中間試験			実施しない		
課題学習 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで情報収集したものをまとめ、資料を作成する (4回) ・10分程度のプレゼンテーションを行う (パワーポイントの使用可) (4回) 			<ul style="list-style-type: none"> ・情報資料をまとめ、発表用の資料を作ることができる ・グループ内で協力して作業することができる ・役割分担をし、他の人にわかりやすいプレゼンテーションができる ・他のグループの発表を聞き、評価することができる 		
後期期末試験			実施しない		

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科, 建築学科			体育		
学年	第1学年	担当教員名	恐神邦秀, 三島利紀, 館岡正樹		
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目
授業の目標と概要	各種の運動はその種目によりそれぞれ異なった特性を持っている。こうした特性の違う種目に応じた練習・修得の過程でルール・マナー・安全に対する態度・知識を会得すると共に、体力を高め運動を楽しむ態度を養う。また、協調性・社会性を身につける事を期待する。釧路高専教育目標 (E)50%(F)50%				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	講義は全て実技である。実技の実習場所は体育館の外、屋外(野球場・サッカー場・アイスホッケー場)で行うが、実技にふさわしい服装(運動着・運動靴)で参加する事。				
到達目標	個々人の運動能力や体力に格差が有る事から、一概に設定出来ないが、個々人の体力に応じ、積極的に各種目に参加することができ、運動能力を高めると共に協調性・社会性を身につける事ができる。				
成績評価方法	運動への取り組み状況・意欲(30%)運動能力等(70%)とし、総合評価を行う。したがって運動が不得手だからといって、評価が下がる事はない。積極的に取り組む事が肝要。				
テキスト・参考書	参考書; イラストによる最新スポーツルール(大修館)				
メッセージ	屋外での種目は、天候により適宜屋内種目に変更する。また運動が得意な人、不得手な人等個人差があると思われるが、得意・不得手にかかわらず積極的に参加する事。				
授業内容					
授業項目			授業項目ごとの達成目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス、レクリエーション (1回) ・バレ-ボール (基本練習) (2回) バレ-ボール (応用ゲーム) (2回) ・体力診断テスト (1回) ・運動能力テスト (1回) 			<ul style="list-style-type: none"> ・1年の授業の流れと注意事項 ・オーバー、アンダーハンドパスを正確に行うことができる。 ・サーブを相手コートに入れることができる。 ・チーム内で協力しラリーの多いゲームができる。 ・自己の体力を確認することができる。 ・自己の運動能力を確認することができる。 		
前期中間試験			実施しない		
<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール(基本練習) (2回) ソフトボール(ゲーム) (2回) ・サッカー (基本練習) (2回) サッカー (ゲーム) (2回) 			<ul style="list-style-type: none"> ・基本となるスローイングとキャッチングができる ・フライやゴロをキャッチすることができる ・基本的なルールを理解し、相互審判をしながらゲームを進めることができる ・インサイドキック(パス)が正確にできる ・身体のいろいろな部分でトラップができる ・インサイドかインフロントでシュートを打つ事ができる。 ・ゲームに必要なルールを理解できる 		
前期期末試験			実施しない		
<ul style="list-style-type: none"> ・格技 柔道 基本練習 (2回) 柔道 応用練習 (2回) 柔道 試合 (1回) ・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (2回) 			<ul style="list-style-type: none"> ・礼儀作法を理解し、重んじることができる ・受身ができる ・足技(送り足払い・出足払い)、投げ技(大腰・体落とし・背負い投げ)、寝技(けさ固め・横四方・上四方)ができる ・禁止事項を守り、怪我に注意しながら試合ができる。 ・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体種目・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる 		
後期中間試験			実施しない		
<ul style="list-style-type: none"> ・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (3回) ・アイスホッケー(基本練習) (3回) アイスホッケー(ゲーム) (2回) 			<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体種目・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる ・スケートニングができる ・ストップができる ・パス及びシュートができる ・怪我に注意しながらゲームを行うことができる 		
後期期末試験			実施しない		

機械工学科, 電気工学科		英語			
学年	第1学年	担当教員名	伊関敏之		
単位数・期間	6単位	週当たり開講回数	3回	通年	必修科目
授業の目標と概要	教科書、単熟語集、その他自主教材を活用することによって、基礎的な単語、熟語、基本的な文法知識の習得、平易な英文の読解力の向上、やさしい英語による表現力の向上を目指すと同時に、適宜リスニング教材を用いて、聞き取り能力の向上も目指す。 釧路高専目標 (F-6)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	毎週(年間15回)単熟語集から出題する「単語テスト」を実施する。 年に3回(7月上旬、11月下旬、2月中旬)、英語検定形式の実力試験(英検テスト)を授業時間内で実施する。				
到達目標	英語検定準2級レベルの英語に対応するために必要な基礎的な英語力を取得できる。				
成績評価方法	年間4回の定期試験の成績の平均を40%、随時行う小テストの成績の平均を10%、単語テストの成績の平均を20%、英検テストの成績の平均を30%として、その合計点を成績とする。				
テキスト・参考書	教科書: POWWOW ENGLISH COURSE 1 (文英堂) 参考書1: 英検 Pass 単熟語集3級(旺文社) 参考書2: 英検 Pass 単熟語集準2級(旺文社) プラクティカルジーニアス英和辞典(大修館)				
メッセージ	外国語の勉強は、目で見て、耳で聞いて、口に出して発音して、手で書いてみることの繰り返しです。そのような作業を十分にやりながら、慣れることが何よりも大切です。				
授業内容					
授業項目			授業項目ごとの達成目標		
(1)教科書: Lesson1,2,3 (2)単語テスト: No.1~No.5 (3)文法: 不定詞、受動態、分詞(現在分詞と過去分詞) (4)リスニング教材 (5)英検準2級実践問題 (1)~(5)を並行して行う(合計21回)			(1)各レッスンの内容を理解し、重要表現を使いこなすことができる。 各レッスンの重要語句の意味が言える。 (2)単熟語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。 (3)不定詞、受動態、分詞の働きを理解し、適切に使用できる。 (4)与えられた英文を聞き、その内容を聞き取れる。 (5)各設問の正答に至るプロセスが理解できる。		
前期中間試験			実施する		
(1)教科書: Lesson4,5,6,7 (2)単語テスト: No.6~No.8 (3)文法: 完了形(現在完了形と過去完了形)、現在完了進行形、関係代名詞 (4)リスニング教材 (5)英検準2級実践問題 (1)~(5)を並行して行う(合計24回)			(1)各レッスンの内容を理解し、重要表現を使いこなすことができる。 各レッスンの重要語句の意味が言える。 (2)単熟語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。 (3)完了形、現在完了進行形、関係代名詞の働きを理解し、適切に使用できる。 (4)与えられた英文を聞き、その内容を聞き取れる。 (5)各設問の正答に至るプロセスが理解できる。		
前期末試験			実施する		
(1)教科書: Lesson8,9,10 (2)単語テスト: No.9~14 (3)文法: 関係副詞where、強調構文、関係代名詞what (4)リスニング教材 (5)英検準2級実践問題 (1)~(5)を並行して行う(合計24回)			(1)各レッスンの内容を理解し、重要表現を使いこなすことができる。 各レッスンの重要語句の意味が言える。 (2)単熟語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。 (3)関係副詞where、強調構文、関係代名詞whatの働きを理解し、適切に使用できる。 (4)与えられた英文を聞き、その内容を聞き取れる。 (5)各設問の正答に至るプロセスが理解できる。		
後期中間試験			実施する		
(1)教科書: Lesson11,12,13 (2)単語テスト: No.15~17 (3)文法: 分詞構文、関係副詞when (4)リスニング教材 (5)英検準2級実践問題 (1)~(5)を並行して行う(合計21回)			(1)各レッスンの内容を理解し、重要表現を使いこなすことができる。 各レッスンの重要語句の意味が言える。 (2)単熟語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。 (3)分詞構文、関係副詞whenの働きを理解し、適切に使用できる。 (4)与えられた英文を聞き、その内容を聞き取れる。 (5)各設問の正答に至るプロセスが理解できる。		
後期末試験			実施する		

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科			音楽			
学年	第1学年	担当教員名	高橋久美子			
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	音楽美を理解し、感得することで創造的活動と知的陶冶に結びつけ、高尚な美的情操と豊かな人間性を養うことに目標を置く。 生活の中に高尚な趣味を持ち、美的判断を高め、円満な人間形成ができるようになる。 釧路高専教育目標 A1					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	リコーダー、ギター、キーボードを大切に使用する。 音を出すことに責任を持てるようにする。					
到達目標	音楽の基本的な表現に必要な技能を修得できる。 音楽経験を豊かにするために必要な知識を理解できる。 優れた音楽に親しみ、音楽の美しさを味わって聞くことができる。					
成績評価方法	前期の基礎的実技テスト(個人の歌唱、器楽奏、グループ奏)30% 後期の応用敵実技テスト(個人の作曲、グループ作曲、指揮等)30% 音楽史、楽典、聴音などの学習時の提出物30% 授業態度10%					
テキスト・参考書	教科書 高校音楽 改訂版 (教育出版) DVD、CD、総譜など					
メッセージ	実技の練習は効率的に行うこと。 友人同士で助け合うことが大切です。					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
1 音楽のなりたち	アフリカの音楽	(1回)	・音から音楽について知る。新曲のリズム奏ができる。			
2 日本の音楽	滝廉太郎・山田耕筰の世界	(2回)	・雅楽から現代曲まで学ぶことができる。			
3 歌曲の表現		(2回)	・曲の意味を理解し、正しく演奏できる。			
4 器楽曲の表現		(2回)	・楽器の特性を知り、生かして演奏できる。			
5 ヨーロッパの音楽(導入)		(1回)	・「サウンド・オブ・ミュージック」の鑑賞ができる。			
前期中間試験			実施する			
6 ドイツの音楽		(1回)	・代表的作曲家3大Bについて学ぶことができる。			
7 聴音から記譜の方法		(2回)	・楽曲を知ることができる。			
8 イタリアの音楽		(1回)	・イタリア語で歌うことができる。			
9 調性について、友人と作曲する		(2回)	・グループで考えて、短い曲を作ることができる。			
10 フランスの音楽		(1回)	・ショパンについて学ぶことができる。			
前期末試験			実施する			
11 スペインの音楽		(1回)	・「カルメン」を鑑賞できる。			
12 コードを組み立てる		(2回)	・ギターやキーボードに生かし、演奏できる。			
13 ロシアの音楽、東洋の音楽		(1回)	・拍子の学習をし、指揮の練習ができる。			
14 北欧の音楽		(1回)	・「フィンランディア」のスコアを学習することができる。			
15 イギリス、アメリカの音楽		(2回)	・「グリーンズリーヴス」のアンサンブルができる。			
後期中間試験			実施する			
16 聴音からの創作		(2回)	・友人の曲を聞き合う			
17 南米の音楽		(1回)	・歌詞と音符を正しく使うことができる。			
18 形式について 和音の使い方		(2回)	・コード進行を考えて短い曲を作ることができる。			
19 アジアの音楽		(1回)	・リズム、メロディ、ハーモニーを理解し、実践できる。			
20 作詞、作曲表現として挿し絵をつける		(2回)	・正しく記譜することができる。			
後期末試験			実施する			

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科			美術			
学年	第1学年	担当教員名	小川一彦			
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	1回	通年	選択科目	
授業の目標と概要	心をこめた創造的な作品づくり。豊かな感性、情操を引き出し表現に結び付けさせたい。制作を通して美術の楽しさを味わせたい。視覚を養い基礎的デッサン力を身につける。創造的発想に基づく内面の表現。 釧路高専目標 (A-1, B-2, E-1, F-1, G-1)					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	制作に必要な道具を忘れないこと。(6Fスケッチブック、図画鉛筆、消しゴム、絵の具セット一式等)					
到達目標	制作課題を受け止め表現することができる。					
成績評価方法	全制作作品の相対評価を軸に出欠、遅刻、授業準備、授業態度を含めた総合評価とする。作品(80%) + 出欠・遅刻・授業の準備、授業態度(20%)					
テキスト・参考書	美術・その精神と表現(現代美術社刊) - 貸し出し制					
メッセージ	美術の楽しさ、おもしろさ、深さを体験しよう。					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
1 ガイダンス・手のデッサン・・・(1回)	2 石膏(幾何学的模型)デッサン・・・(3回)	3 人物クロッキーA・・・(4回) 人物クロッキーB・・・(2回) 彩色(淡彩)	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の授業に関して留意すべき点を理解できる。 ・芸術の中で美術の特異性を理解できる。 ・制作に必要な道具、授業上の留意事項を理解できる。 ・形、量感、陰影、空間との関係が理解できる。 ・速写表現の要領を会得する ・しっかり見てモデルの特徴をとらえられる。 ・線の強弱、デフォルメの試みができる。 ・パレット、絵具、筆等使い方の基本を理解できる。 ・淡彩画の要領を会得できる。 			
前期中間試験			実施しない			
4 イラスト「人間」 ・導入・構想のためのアイデアスケッチ ・整理、構成、表現方法の確認・・・(6回)	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストレーションを理解できる。 ・課題を受け止め具体的自己テーマを設定できる。 ・自己テーマにそって種々スケッチができる。 ・本番に向け作品化する為に整理し、構成できる。 ・表現方法を独創的に計画できる。 					
前期期末試験			実施しない			
5 ・本番の制作(趣旨・感想文等を含む)・・・(6回)	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に着色していくことができる。 ・粗雑な着色にならないようにできる。 ・構図、配色、表現の工夫等満足ゆく表現ができたか? テーマの客観的アピール度は? 完成度は? ・内面を表現するおもしろさ、難しさが体験できる。 					
後期中間試験			実施しない			
6 樹木のある冬の風景・スケッチ・彩色・・・(6回)	7 自画像のデッサン・・・(2回)	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の樹木を観察し樹の動きを表現できる ・冬景色の色数の少ない中から色を発見できる ・自己の内面に迫る自画像を描くことができる 				
後期期末試験			実施しない			

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 建築学科			数学A			
学年	第1学年	担当教員名	清野光夫, 阿部義美, 片山芳郎			
単位数・期間	4単位	週当たり開講回数	2回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	数学的な考え方や数式の計算技能を深め、方程式・不等式の解法を学ばせ、関数の概念を理解させる。関数の基本的な性質を習得させ、第2学年からの微分・積分に備える。 釧路高専目標(C)					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	当り前のことであるが、教科書・ノート等を忘れず持参し、授業の内容をきちんとノートをとることが大切である。授業で指示された問いや練習問題を必ず自学自習し、時間の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求めよ。					
到達目標	基本事項と数学的な考え方を十分理解でき、教科書および補助教材の問題の60%は自分の力で解けるようにできる。					
成績評価方法	試験の点数の総合計によって評価する(100%)。詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。					
テキスト・参考書	教科書：新訂 基礎数学(大日本図書) 補助教材：新編 高専の数学1問題集(森北出版) 参考書：新課程チャート式基礎と演習数学I+A, II+B(数研出版)					
メッセージ	授業の内容を十分に理解するためにはノートをきちんととり、積極的に質問するように努め、さらにあとで必ず復習することが大切である。 ノートは数学Bと別にすること。					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
ガイダンス(0.5回) 第1章 数と式の計算 (1) 整式の計算(7回) (2) いろいろな数と式(7.5回)			<ul style="list-style-type: none"> ・整式の四則計算ができる。 ・展開公式、因数分解ができる。 ・因数定理を利用して高次式の因数分解できる。 ・分数式の四則計算ができる。 ・絶対値をはずすことができる。 ・平方根の計算、分母の有理化ができる。 ・複素数の四則計算ができる。 ・複素共役、絶対値が求められることができる。 			
前期中間試験			実施する			
第2章 方程式と不等式 (1) 2次方程式(6回) (2) 恒等式と等式の証明(2回) (3) 不等式とその証明(6回)			<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式の判別式を利用して解を判別できる。 ・2次方程式の解と係数の関係を身につけている。 ・基本的な方程式が解ける。 ・恒等式などの等式を説明できる。 ・等式の証明ができる。 ・1次、2次不等式を解くことができる。 ・不等式の証明ができる。 			
前期期末試験			実施する			
第2章 方程式と不等式 (4) 不等式(2回) 第3章 関数とグラフ (1) 2次関数(5回) (2) 分数関数(3回) (3) 無理関数(3回) (4) 逆関数(2回)			<ul style="list-style-type: none"> ・集合の用語・記号が使える。 ・命題の真偽を判断できる。 ・命題の逆・裏・対偶を作成できる。 ・1次、2次、分数、無理関数のグラフがかけられる。 ・2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・2次方程式、不等式を解くことができる。 ・グラフの平行移動、対称移動ができる。 ・逆関数を求めることができる。 			
後期中間試験			実施する			
第4章 指数関数と対数関数 (1) 指数関数(7回) (2) 対数関数(8回)			<ul style="list-style-type: none"> ・指数法則を用いて、いろいろな指数計算ができる。 ・指数関数のグラフがかけられる。 ・指数方程式・不等式が解ける。 ・対数計算ができる。 (以下、時間が足りない場合は2学年で学習する) ・対数関数のグラフがかけ、対数方程式・不等式が解ける。 ・常用対数を利用して、各種の問題を解くことができる。 			
後期期末試験			実施する			

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 建築学科			数学B			
学年	第1学年	担当教員名	山崎俊博, 林義実			
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	専門学科ですぐ必要となる三角関数の基本的な性質・公式・グラフを理解し、応用する力を養わせる。 後期後半では平面図形のうち直線の方程式を学習させる。 釧路高専目標(C)					
履修上の注意 (準備する用具・ 前提となる知識等)	当り前のことであるが、教科書・ノート等を忘れず持参し、授業の内容をきちんとノートをとることが大切である。授業で指示された問いや練習問題を必ず自学自習し、時間の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求めよ。					
到達目標	基本事項と数学的な考え方を十分理解でき、教科書および補助教材の問題の60%は自分の力で解けるようにできる。					
成績評価方法	試験の点数の総合計によって評価する(100%)。 詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。					
テキスト・参考書	教科書：新訂 基礎数学(大日本図書) 補助教材：新編高専の数学1問題集(森北出版) 参考書：基礎と演習数学I+A, II+B(数研出版)					
メッセージ	授業の内容を十分理解するにはノートをきちんととり、積極的に質問するように努め、さらにあとで必ず復習することが必要である。ノートは数学Aと別にすること。					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
ガイダンス(0.5回) 第5章 三角関数 (1) 鋭角の三角比(1.5回) (2) 鈍角の三角比(2回) (3) 三角比の相互関係(1回) (4) 三角形への応用(2回)			<ul style="list-style-type: none"> ・鋭角・鈍角の三角比を求めることができる。 ・三角関数表を使って簡単な応用問題が解ける。 ・正弦定理、余弦定理を利用して、辺や角を求めることができる。 ・三角形の面積を求めることができる。 			
前期中間試験			実施する			
第5章 三角関数 (5) 一般角と弧度法(2回) (6) 三角関数とその相互関係(2回) (7) 三角関数のグラフ(4回)			<ul style="list-style-type: none"> ・弧度法と60分法との相関ができる。 ・一般角の概念を身につけている。 ・三角関数の性質・相互関係を説明できる。 ・三角関数のグラフがかけられる。 ・三角方程式、不等式を解くことができる。 			
前期期末試験			実施する			
第5章 三角関数 (8) 加法定理(2回) (9) 加法定理の応用(5回)			<ul style="list-style-type: none"> ・加法定理、2倍角、半角の公式を利用して三角関数の値を求めることができる。 ・和・差と積の変換ができる。 ・正弦と余弦の2つの三角関数の合成ができる。 			
後期中間試験			実施する			
第6章 図形と式 (1) 点と距離(3回) (2) 直線(5回)			<ul style="list-style-type: none"> ・2点間の距離、内分点・重心の座標を計算できる。 ・直線の方程式を求めることができる。 ・2直線の平行・垂直の関係から直線の方程式を求めることができる。 			
後期期末試験			実施する			

電気工学科		電気製図				
学年	第1学年	担当教員名	山岡勝			
単位数・期間	3単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	電気製図の規格記号や製図の基礎を十分に把握し、電気・電子機器、電気施設を理解するための基礎力を養うことを目標にする。 専門科目の初めて学習であるので電気の初歩的事項を確実に理解することを目標にする。このため関連する数学の学習も適時取り入れる。 【釧路高専教育目標:(C)】					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	・製図用具と方眼紙をおよび関数電卓は毎回持参すること。 ・定期試験を行わず、提出課題の結果で評価するので、課題は指示に従って確実に提出する必要がある。					
到達目標	・製図についての基礎(基本的な考え方や手順、考慮すべき事項など)を理解し、習得している。 ・電気技術にかかわる(電気・電子機器および機械要素などの)図面を読むことができ、基本的な図面および回路図面などを描くことができる。					
成績評価方法	別に定める電気工学科の評価基準による。					
テキスト・参考書	教科書：配布資料を使用する。 ただし補助教材「電気・電子製図練習ノート」(実教出版)を利用する。					
メッセージ	高学年になって学習する専門科目の初歩を確実に理解しよう!					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
1. ガイダンス(1回) シラバス、授業の概要・進め方など 2. 製図の基礎(3回) 電気製図に関する規格 文字と記号、線・平面図形 等角図・第三角法・寸法記入 3. 製作図(1回) 4. 関数電卓の使用法と関数のグラフ(2回)			2. 電気製図の基礎となる文字と記号、線・平面図形について理解できる。 等角図・第三角法・寸法記入の基本的事項が理解できる。 3. 製作図の基本について理解できる。 4. 電気工学で使用する関数グラフの基礎的事項について理解できる。			
前期中間試験			実施しない			
5. 機械要素(3回) 機械要素とJIS規格の関係 機械部品(ボルト・ナット・小ネジなど) 6. 電気機器(4回) 各種図記号(電気・電子・電力・論理回路) 7. 製図関連数学の補習(1回)			5. 機械要素とJIS規格の関係について理解できる。 機械部品のボルト・ナット・小ネジの製作図を描くことができる。 6. 各種図記号(電気・電子・電力・論理回路)が理解できる。 7. 製図関連の数学が理解できる。			
前期期末試験			実施しない			
8. 電気設備(3回) 屋内配線、自家用変電設備およびシ・ケンス制御 9. 電子機器(3回) 電話機、無線受信機(トランジスタ ラジオ)、直流安定化電源回路、負帰還増幅回路、論理回路・集積回路の基本的回路図 10. 製図関連数学の補習(1回)			8. 屋内配線の製作図、自家用変電設備の製作図およびシ・ケンス制御の展開接続図を描くことができる。 9. 電話機の構造を理解し製作図を描くことができる。 無線受信機(トランジスタ ラジオ)回路図を描くことができる。 基礎的直流安定化電源回路・負帰還増幅回路図を描くことができる。 基礎的論理回路・集積回路図を描くことができる。			
後期中間試験			実施しない			
11. CAD製図 コンピューター利用ガイダンス(1回) ソフト(JwCAD)の概要説明(2回) 直線と円などの基本図形の製図(3回) 寸法と文字入力(2回)			9. CADを利用して簡単な製図ができる。			
後期期末試験			実施しない			

電気工学科		電気基礎				
学年	第1学年	担当教員名	松永繁樹			
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	<p>最初の専門科目の学習であることから、電気についてのイメージをしっかりとつかみ、電気になじみをもたせることを目標とする。電池と抵抗などで構成される直流回路の電圧や電流を算出する方法などの基礎知識を身につける。電気工学の学習では、数式による取扱いが不可欠となるので、数学の復習や演習を必要に応じて取り入れ、基礎的な電気数学を修得させる。</p> <p>【釧路高専教育目標:(C)】</p>					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で学習したり、入学後学習する数学(小数、分数、多項式などの四則演算、指数計算、連立方程式など)が基礎となるので、各自復習をしっかりとしておくこと。 ・講義では、必要に応じて復習や演習も行う。 ・電卓を持参すること。 ・演習課題レポート(10回程度)にあつては、その内容を十分に理解すること。 					
到達目標	<p>(1) 電気工学で使用される電圧、電流、抵抗など専門用語の意味を理解でき、電気の基礎知識を身につけている。</p> <p>(2) 直流回路の電圧、電流、抵抗などの算出方法を理解し、計算ができる。</p> <p>(3) 実体回路と記号回路の比較ができる。</p>					
成績評価方法	<p>合否判定：4回の定期試験の結果の平均が60点以上であること。</p> <p>最終評価：4回の定期試験の結果の平均(80%)と演習課題レポート(20%)及び授業態度(±10%)の合計</p>					
テキスト・参考書	<p>教科書：「わかりやすい電気基礎」高橋寛、増田英二 共著 コロナ社。</p> <p>参考書：「基礎電気工学 直流編」末武国弘 ほか 廣済堂出版。</p> <p>参考書：「電気基礎」柴田尚志、皆藤新一 共著 コロナ社。</p> <p>参考書：「電気基礎1 新訂版」片岡昭雄、岩本洋 ほか 実教出版。</p>					
メッセージ	<p>今後5年間にわたる電気工学の学習の基礎となるものであるため、ポイントとなる箇所はしっかりと身につけて行こう！</p> <p>定期試験の際には、電卓の持ち込みを可としている。</p>					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
1. ガイダンス(1回) シラバスについて、授業の概要・進め方など 2. 数学の復習と演習(1回) 3. 電子と電流、直流と交流(1回) 4. 電位、電圧、起電力(1回) 5. 電気回路(1回) 6. オームの法則(1回) 7. 復習と演習(1回)			2. 数学(中学)の必要事項を復習して理解ができる。 3. 電流とは何か、直流と交流の違いなどが理解できる。 4. 電位、電圧、起電力の用語の意味を理解できる。 5. 実体図と記号図で表した電気回路、電圧計と電流計の接続方法を理解できる。 6. オームの法則の意味を理解し実用計算ができる。 7. これまでの学習事項のポイントを復習して理解ができる。			
前期中間試験			実施する			
8. 基礎的電気数学の演習(1回) 9. 電気回路と抵抗の並列回路(1回) 10. キルヒホッフの第1法則(0.5回) 11. 抵抗の直列回路(1回) 12. キルヒホッフの第2法則(1.5回) 13. 抵抗の直並列回路(1回) 14. ホイートストンブリッジ(1回)			8. 分数などの四則演算、方程式が確実に計算できる。 9. 抵抗の並列接続の合成抵抗の計算ができる。 10. キルヒホッフの第1法則の意味・関係式を理解し、実用計算ができる。 11. 抵抗の直列接続の合成抵抗の計算ができる。 12. キルヒホッフの第2法則を理解し計算ができる。 13. 抵抗の直並列接続の合成抵抗の計算ができる。 14. ホイートストンブリッジの原理を理解し、平衡条件式を求めることができる。			
前期末試験			実施する			
15. 電源の接続と内部抵抗(1回) 16. 復習と演習(1回) 17. 抵抗率と導電率(1回) 18. 抵抗の温度係数(1回) 19. 抵抗器(0.5回) 20. 復習と演習(1回) 21. 基礎的電気数学の演習(1回) 22. 電流の3作用(0.5回)			15. 電源(電池)の直並列接続方法と内部抵抗の等価回路について理解ができる。 16. これまでの学習事項の要点を復習・理解できる。 17. 導線の抵抗の計算式、および導電率と抵抗率の関係を理解し、実用計算ができる。 18. 温度変化と電気抵抗の関係式を理解できる。 20. これまでの学習事項の要点を復習・理解できる。 21. これまでの基礎的な電気数学の計算ができる。 22. 電流の3作用を理解できる			
後期中間試験			実施する			
23. 電流の発熱作用とジュールの法則(1回) 24. 電線の許容電流(1回) 25. 電力と電力量(1回) 26. 熱電現象(1回) 27. 復習と演習(1回) 28. 直流回路の実験(1回) 29. 基礎的電気数学の演習(1回)			23. 電気エネルギーと熱エネルギーの関係が理解できる。ジュールの法則と熱量計算ができる。 24. 電線の許容電流の意味を理解し、計算ができる。 25. 電力と電力量の違いを理解し、実用計算ができる。 27. これまでの学習事項の要点を復習・理解できる。 28. 電源と抵抗などで直流回路を組み立てたり、実際に電圧計、電流計、抵抗計で測定ができる。 29. これまでに学んだ基礎的な電気数学の計算ができる。			
後期末試験			実施する			

電気工学科		コンピュータリテラシー			
学年	第1学年	担当教員名	佐藤英樹, 工藤信博		
単位数・期間	1単位	週当たり開講回数	1回	前期	必修科目
授業の目標と概要	コンピュータを使った文書作成能力とインターネット上での情報収集とコミュニケーション能力を養成する。内容は文書作成はMS-Officeを使った文書作成を中心に演習を行い、情報収集とコミュニケーション能力はInternet ExplorerとOutlook Expressを使った演習を中心に行なう。 釧路高専教育目標(A 15%), (F 85%)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	授業場所は特に断らない限り情報処理センター第2演習室を使用する。遅刻、欠課等に伴う遅延は放課後等の補習で対処しますが、その際、補習予定を組みますので学生本人が自ら教員へ申告・予定打ち合わせに来る事。 (自己申告による補習なき場合はその単元の点数が0点になる場合があります) 定期試験は行わないが、知識主体の単元は小テスト、演習主体の単元は各授業中の演習課題提出と単元末の単元課題提出で評価する。				
到達目標	文書作成の標準的なアプリケーションソフトウェアであるMS-Officeを使って文書資料の作成が出来る事。インターネットを利用した情報収集やメールの送受信が出来、また、ネット利用の際の問題点を認知出来る事。				
成績評価方法	下記授業項目毎に1)は小テスト100%、2)及び4)~6)は演習課題50%、単元課題50%、3)は演習課題100%で評価する。 合否判定は1)~5)各15%、6)25%として合計して60点以上を合格とする。最終評価も同様である。				
テキスト・参考書	テキスト：自作テキストを配布する。参考書：必須ではない。購入・使用は個人の判断に任せるが、初めてのPC使用であれば、アスキーより出版されている「Z式マスター」シリーズを薦める。 Z式マスター「ワード2003」、「エクセル2003」など。				
メッセージ	特に有りません。				
授業内容					
授業項目			授業項目ごとの達成目標		
1) コンピュータとその基本的な利用方法 (2回) 2) MS-Wordを使った文書作成演習 (2回) 3) ネットでのコミュニケーションと情報収集 (3回)			1) コンピュータの歴史を理解できる。MS Windowsの起動と終了ができる。キーボード・マウス操作、日本語入力、ファイル操作ができる。 2) MS-Wordを使った日本語文書(書式設定、文字修飾、図入れ)作成が出来る。 3) ネット上での注意問題点とトラブル対処ができる。(学内ネットワーク利用事前講習を兼ねる)電子メールの送受信とファイル添付が出来る。インターネットで情報収集が出来る。		
前期中間試験			実施しない		
4) MS-Excelを使った作表・計算とグラフ作成 (2回) 5) MS-Powerpointを使ったプレゼンテーション資料の作成 (2回) 6) ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトを用いた複合文書の作成 (4回)			4) Excelを使ったデータ処理(作表と計算)とグラフ作成が出来る。 5) Powerpointを使った効果的な(アニメ効果を用いた)プレゼンテーション資料が作成できる。 6) 上記項目2)、4)および5)で習得した技術を利用し3種のソフトが持つ機能・特徴を複合した文書資料作成が出来る。		
前期期末試験			実施しない		
後期中間試験					
後期期末試験					